

《履修上の留意事項》受講時にパソコンを必携する。なければスマホ等その他の情報機器も一部代用できる。講義時間内に表計算アプリを使った練習や演習を行う。参照配布する資料はすべてデジタルデータで紙は配布しない。

《担当者名》長谷川 聡（非） haseg@hoku-iryu-u.ac.jp

【概要】

現場実習や卒業論文などを含むすべての専門科目の学修と研究を支える科目である。社会福祉実践に必要な情報リテラシーを身につける目的で、オープンデータ利用による実践的な情報処理過程を体験し「数理的・論理的に考えて表現する」アカデミックスキルを学修する。

【学修目標】

- 1) 情報リテラシーを理解するためにコンピュータとネットワークによる情報活用の技術と技能を習得する。
- 2) 保健・医療・福祉・教育情報の利活用技術を知り、「データに基づいて考える、発信する」技能を習得する。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	オリエンテーション	シラバスと学修方法を説明できる。 学生の個別学習ニーズを検討する。	長谷川
2	表計算アプリ活用の基礎	表計算アプリの利用目的・方法と特徴を概説できる。 表計算の起動とデータ入力操作ができる。 (テキストSTEP1)	長谷川
3	表計算アプリ活用の基礎	表作成と印刷の操作ができる。 (テキストSTEP2)	長谷川
4	表計算アプリ活用の基礎	計算機能进行操作できる。(テキストSTEP2)	長谷川
5	表計算アプリ活用の基礎	グラフ作成機能进行操作できる。(テキストSTEP3)	長谷川
6	表計算アプリ活用の基礎	データ分析機能进行操作できる。(テキストSTEP4)	長谷川
7	表計算アプリ活用の基礎	関数機能进行操作できる。(テキストSTEP5)	長谷川
8	表計算アプリ活用の基礎	総合演習課題(ドリル課題)を実行できる。	長谷川
9	表計算処理演習	オープンデータの入手: その所在と信頼性を説明し、 利用目的を検討して入手できる。	長谷川
10	表計算処理演習	数値データの前処理: 入手データを表計算処理するために加工できる。	長谷川
11	表計算処理演習	数値データ分析: 目的に沿った分析手法を選択実行して結果を読む。	長谷川
12	表計算処理演習	データに基づく発表: 発表用に加工した表を用いて報告できる。	長谷川
13	表計算処理演習	データに基づく発表: 発表用に加工した表を用いて報告できる。	長谷川
14	統計資料の解題と読解	公開された統計資料をクリティークできる。	長谷川
15	総合討議	獲得したスキルを振り返り講義後の学修課題について討議する。	長谷川

【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部(研究科)、学校の授業実施方針による

【評価方法】

授業参加状況70%(ドリル課題50%、リアクションシート10%)、期末課題40%。提出物はGoogle ClassroomとGoogle Formによるオンライン提出で、いずれもコメントが返却される。

【教科書】

「繰り返して慣れる！完全マスターExcel Office365・Office2019対応」 noa出版(編著) noa出版

【参考書】

「考える 伝える 分かちあ う 情報活用力」本田直也(監修) noa出版

「活用事例でわかる！統計リテラシー ～数学が苦手でも大丈夫!～」noa出版(編著) noa出版

【備考】

数値データ処理のためのドリル課題を多数用意されており、予習・復習を十分に行うことが期待されている。

【学修の準備】

1年時「情報処理演習」教科書の演習問題を受講前にやりなおしておく。(5時間程度)

パソコンとインターネットの基本的な利用の仕方を再確認し、できないところは同教科書を読み例題・演習問題をやり直して再学習しておく。(10時間程度)

統計学や統計実務に不慣れな場合は基礎教育科目「統計学」を復習し、参考図書を購入して受講前に通読しておく。記述統計及び基本統計量が理解できれば良い。(20時間程度)

【ディプロマ・ポリシー(学位授与方針)との関連】

DP2,3

【実務経験】

行政職員(福祉技術職)、社会福祉法人理事長

【実務経験を活かした教育内容】

障害福祉分野の相談機関、自立支援施設での実務経験を活かし、相談及び情報提供サービスに必要なニーズ調査や、専門情報の収集・分析・加工・提供あるいは発信に至る一連の情報処理作業の実際について、講義と演習を行う。